



Vol. 5

東京から広島に 来て、ゴミひろ い？

～中古車販売会社社員に
よる社会貢献活動～

EPOちゅうごく
事務局長 松尾 健司



7月の暑い日、広島空港に降り立った屈強な男たちの正体は、東京に本社を置く中古車販売会社の社員の方々、めざすは宮島ですが、目的は観光ではなく……。

ある時、EPO（えぽ）ちゅうごくに、東京から「企業の方が中国地方で地域の方々とボランティア活動をするとしたら、どこで、だれとがいい？」と聞かれたので「例えば宮島で国立公園のボランティアさんと一緒に海岸清掃でもしませんか？」と答えました。すると、本当にやってきた！？のです。当然、終わった後は神社なども見て回る予定ですが、あくまで目的は「地域の方々と連携しての社会貢献」です。雨の日でも風の日でも、笑顔でお客様を迎える会社の人たちが「知らない土地で地元の人たちと汗を流したい」と、やってきました。

宮島にわたり、栈橋前の藤棚の下で瀬戸内海国立公園宮島地区パークボランティアの方々とミーティング。真夏の暑い日差しも藤棚が遮り、海からの風が心地よく吹きぬけていく中で、宮島とその周囲の海や島の環境についての事前学習会です。もはや自然は「ほったらかし」のままでは守っていけないという点について、強く関心を持たれていました。

宮島を訪れた多くの人とは栈橋から逆の方向に歩いて行き藪の中を降りて行くと、もう広島湾では珍しくなった人工の護岸でない海岸が広がります。その水辺の環境が既に貴重であることを周囲に生える塩分に強い植物の解説を聞きながら知りました。

「結構海岸から遠い所までゴミが多いなあ！」と1人の男性が声を上げます。「護岸がないってことは、海が荒れればこの辺はすぐに波にさらされます。自然って、きれいなだけじゃく、怖



いものなんですよ。」とボランティアの方に教えていただきます。そんな話をしているうちに、だんだん皆さんの気分は盛り上がってきました。

いよいよ作業開始、暑い日差しが照りつける中、海岸に打ち寄せられたゴミを皆さん一緒懸命に拾っていきます。ボランティアの方も、遠くから来た若い方々の取組む姿を見て、いつもの清掃活動の時より、意欲は何割か増しているようで、また、時折笑顔で声をかけます。「宮島で活動するボランティア」に「毎日屋外で接客をするプロ」の方々は、猛暑の中でも着実の成果をあげていきます。お昼をはさんで60～90分の作業を3回ほど繰り返すと、ゴミ詰まった袋が20個近くも積み上がりました。かなり周囲はきれいになったようですが、ボランティアの方々いわく「台風が1回でも来れば1番で元の散らかり様に戻っちゃいますけどね」といわれて、どこからともなく「ええーっ」との声が上がります。でも、作業の後はみんなとても爽快な気分になりました。

栈橋前に戻って、ふりかえりの「青空学習会」です。海からの風が心地よく感じられながら、ボランティアの方への質問です。「ゴミはどこから来るんですか?」「この辺りでは、そんなに遠くからくるゴミよりも、近くで川から流れ込んだごみの方が圧倒的に多いのですよ。」「拾わなかったゴミはどうなるんですか?」「時折流されていきますが、また打ちあげられたりして、さまよい続けます。最近のゴミは自然の中で分解されないものが多いんですよ。」といった話が、夕方まで続き、皆さん充実した表情で島を後にしていきました。

後日、みなさんに感想をお聞きすると、地元ボランティアの方々も、東京の中古車販売会社の方々も、活動を通じた交流にととても満足していただいたようです。実は宮島では様々な立場の方々が、年間に数十件以上のゴミ拾いの活動をしておられます。でもすぐにゴミは流れつきます。ただ、もし拾われなければ、ゴミは彷徨い続けます。ほとんどのゴミは細かくはなるのですが、決してなくなりません。誰かが回収しなければならないのです。

EPO ちゅうごく（環境省中国環境パートナーシップオフィス）

730-0013 広島市中区 八丁堀 16 番 11 号

日本生命広島第二ビル 2 階

電話番号 082-511-0720 FAX 番号 082-511-0723

ホームページ <http://www.epo-cg.or.jp/>

E-mail info@epo-cg.or.jp